

B イワデンダ イワデンダ科

Woodsia polystichoides D.C.Eaton

2009	C
2017	B
2023	B

【種の特長】常緑性。根茎は短く斜上し葉を叢生する。葉質は柔らかく、やや厚い。胞子嚢群は裂片の裏面に1個つき、長めの楕円形である。包膜は胞子嚢群の下側にあり、受け皿のようにつく。山地の林床内の岩上に生育する。[E]

【分布】北海道・本州・九州・琉球・小笠原。サハリン、千島、朝鮮、台湾、中国。暖地に少ない。

【県内の状況】公園や寺社の庭園の石上に生育している記録があるが、他地方からの石の移動の際に一緒に運ばれてきた可能性もある。県内の自生地は清澄山と県南部の南房総市などの森林内で、沢沿いにある岩の壁面に個体数は少ないが生育している。

【保護対策】森林の保全と生育環境を維持する。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布。千植誌 1958:199-208 / 新千植誌 1975:494 / 倉田・中池 1981 (編) 1981 日本のシダ植物図鑑 2:144-150 / 岩槻 (編) 1992 日本の野生植物シダ:225 / 千植誌 2003:28,42

【写真】2020.3 南房総市 村田威夫

(中池敏之/村田威夫
追補)



B ヌリワラビ ヌリワラビ科

Rhachidosorus mesosorus (Makino) Ching

2009	B
2017	B
2023	B

【種の特長】夏緑性。根茎は長く這い、葉柄は20～40cm。葉身は30～70cmで卵状三角形。葉柄や葉軸は赤褐色で硬く光沢がある。山地の林床に生育する。[H]

【分布】本州（青森県以南）・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】従来県北部と県南部の2ヶ所が知られていたが、県中央部でも発見された。ここは20株ほど生育が確認されている。林縁の明るい林床である。本種は分布が限られ、個体数もさほど多くない。これまではノコギリシダ属(Diplazium)として扱ってきたが、海老原(2017)に基づき、独立した科として扱う。

【保護対策】下刈りされる状況下にあるので、山林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975:487 / 倉田・中池 (編) 1990 日本のシダ植物図鑑 6:510-518 / 同 1997 日本のシダ植物図鑑 8:30 / 千植誌 2003:54,71

【写真】1998 袖ヶ浦市 川名興
(川名興/中村建爾/水野大樹 追補)



B ウラボシノコギリシダ メシダ科

2009	B
2017	B
2023	B

Anisocampium sheareri (Baker) Ching

【種の特異】常緑性。根茎が長く横走し、葉をまばらにつける。葉は単羽状複生し、紙質で1m近くになる。葉はやや二形になり、胞子をつける葉は羽片の幅はやや狭く、葉柄は長い。胞子嚢群は円形～楕円形、中肋寄りにつく。包膜は円腎形～くさび形で縁は細かく裂ける。暖地の林床に生育する。[H]

【分布】本州（千葉・新潟県以西）・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県中部の睦沢町、県南部の清澄山、館山市等のスギ林や照葉樹林に稀に分布、個体数は少ない。かつては御殿山等到大群落があったが、林の皆伐により絶滅してしまった。南房総市のスギ林には、狭いが群生していたが、現地ではイヌワラビとの雑種と推定されるホクリクイヌワラビが広く分布している。他所でもホクリクイヌワラビの分布が広がっている。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持することが望ましい。御殿山には植林が行われており、将来再生する可能性もあり、継続的調査が必要である。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布. 千植誌 1958: 199-208 / 新千植誌 1975: 488

／千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告 1989 / 倉田・中池（編）1990 日本のシダ植物図鑑 6: 582-591 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ: 233-234 / 千植誌 2003: 5169

【写真】2005.12.23

富津市 谷城勝弘

（村田威夫）



B ミヤマノコギリシダ メシダ科

2009	A
2017	A
2023	B

Diplazium mettenianum (Miq.) C.Ch.

【種の特異】常緑性。山地、丘陵の緩い斜面に生育する。[H]

【分布】本州（新潟、石川、千葉県以西の暖地）・四国・九州・琉球。台湾、中国南部、ベトナム、タイ。

【県内の状況】1993年に市原市で1株、2000年には山武市で群落が発見された。市原市ではその後確認されていない。山武市では約10m²の所に現在も高密度の群落が確認される。

【保護対策】開発によって生育地が消失しないように配慮し、環境を維持することが望ましい。

【文献】倉俣 1993 シダ会報 2(93): 17-18 / 倉田・中池（編）1997 日本のシダ植物図鑑 8: 29. / 千植誌 2003: 53 / 谷城・村田 2004 山武町北東部のシダ植物. 千生誌 54(2): 33-44 / 千植写真 2005: 332

【写真】2000.12.10 山武市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



B ハクモウイノデ メシダ科

Deparia pycnosora (H.Christ) M.Kato var. *albosquamata* M.Kato

2009	D
2017	C
2023	B

【種の特性】夏緑性。葉柄は太く、長さ 22cm 以下で、通常は葉身の 1/3 以下、生時は半透明の鱗片を密につける。裂片は重なり合って見えることもあり、裏面に腺毛のすることがある。[H]

【分布】北海道～九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県南部の清澄山系周辺と下総台地に点在する。減少傾向が著しく、既知生育地の多くがすでに消滅している。生育地の林床の放置と近年の温暖化が原因と考えられる。

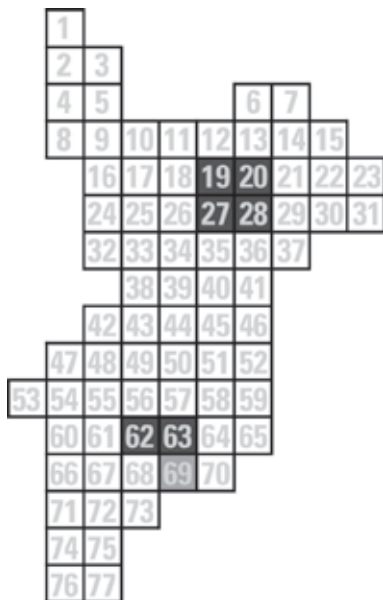
【保護対策】旧生育地ではその微気象を反映して再出現する可能性があるので、環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑 II : 343

【写真】2010.5.9

多古町 谷城勝弘

(倉俣武男／谷城勝弘
追捕)



B ミヤマイトチシダ オシダ科

Dryopteris sabaiei (Franch. et Sav.) C. Chr.

2009	B
2017	B
2023	B

【種の特性】常緑性。胞子のう群は葉の上半分につき、胞子をつけた部分は冬に枯れやすい。葉柄は茶褐色で卵形から広披針形の鱗片がつく。山地の森林性。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

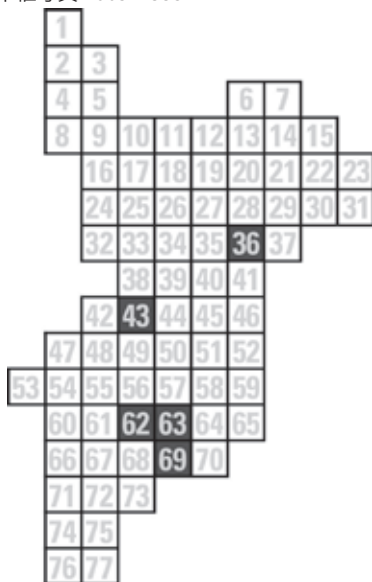
【県内の状況】清澄山系の沢沿いに生育するが、個体数は少ない。近年、山武市のスギ林で 1 株が確認された。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1985 日本のシダ植物図鑑 4 : 544 / 千植誌 2003 : 38 / 千植写真 2005 : 335

【写真】2002.10.10 清澄山 谷城勝弘

(村田威夫／谷城勝弘 追捕)



B キヨズミオオクジャク オシダ科 要保護

2009	C
2017	B
2023	B

Dryopteris namegatae (Sa.Kurata) Sa.Kurata

【種の特異】常緑性。イワヘゴとオオクジャクシダの中間的な形質をもっている。無融合生殖を行うが、両種の雑種起源による可能性もある。胞子が正常であることから独立種とされる。イワヘゴとは、下部羽片が多少短くなること、葉脈の表面でくぼむことで、またオオクジャクシダとは、胞子嚢群が羽軸寄りから中間に1～数列並ぶことで区別できる。山地の林床に生育する。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】1958年に君津市で発見された。清澄山の上総側や高宕山等の沢沿いのスギ林に見られる。個体数は少ない。

【保護対策】沢沿いのスギ林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田 1958 シダ類ノート (18)：北陸の植物 7：113-117 / 倉田・中池 (編) 1985 / 日本のシダ植物図鑑 4：522-526 / 千植誌 2003：38, 48

【写真】2007.8.26 君津市
谷城勝弘
(村田威夫 / 倉俣武男 追補)



B カツモウイノデ オシダ科

2009	B
2017	B
2023	B

Ctenitis subglandulosa (Hance) Ching

【種の特異】常緑性。根茎は短く横走、葉を叢生する。葉柄基部に光沢のある黄褐色の美しい鱗片を密に生じる。鱗片の色が名の由来になっている。葉身は3-4回羽状深裂の大型（1m以上になることもある）のシダ。胞子嚢群は円形。暖地林の林床に群落を形成する。[H]

【分布】本州（千葉、伊豆半島、紀伊半島南部、島根）・四国南部・九州南部・琉球・伊豆諸島。台湾、中国南部、東南アジア、インド、ニューギニア。千葉県は分布の北限に近く、東限。

【県内の状況】県中部、南部に限られた地域に分布。生育状況も良好で大型の株が多い。スギ林や沢沿いの湿潤な照葉樹林の林床に生育する。県南部の沢沿いには、若い個体が見られ、ところによって群生している。温暖化の影響と草食獣の食害が少ないことで分布を広げている可能性がある。

【保護対策】生育している林内に、低木が多く侵入すると生育が脅かされるので、適切な管理が望まれる。また熱帯性のシダであり、生育している林全体の環境を広く維持することが望ましい。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布. 千植誌 1958：199-208 / 新千植誌 1975：488 / 倉田・中池 (編) 1987 日本のシダ植物図鑑 5：552-557 / 岩槻 (編) 1992 日本の野生植物シダ：203 / 千植誌 2003：51, 69

【写真】1994.11
一宮市 村田威夫
(村田威夫)



B ツヤナシイノデ オシダ科

2009	D
2017	D
2023	B

Polystichum ovatopaleaceum (Kodama) Sa.Kurata var. *ovatopaleaceum*

【種の特性】夏緑性。葉軸に上向きで広卵形の鱗片が密につく。葉柄には卵形で淡褐色、先が急にくびれる大きな鱗片がつく。[H]

【分布】本州、四国、九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県北部のスギ林に点在してみられたが、個体数は僅かで、特に近年は減少傾向が著しい。県南部の記録にはイワシロイノデを誤認したものが含まれる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岡武利 2018 イノデ属 神奈川県植物誌上巻：146 / 海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ：411

【写真】2006.4.29 多古町 谷城勝弘

(中池敏之／谷城勝弘 追補)



B イワシロイノデ オシダ科

2009	C
2017	C
2023	B

Polystichum ovatopaleaceum (Kodama) Sa.Kurata var. *coraiense* (H.Christ ex H.Lév.) Sa.Kurata

【種の特性】ツヤナシイノデに似るが、葉身はやや狭長で、葉柄の鱗片は広披針形のものや披針形のもの混在する。葉軸の鱗片は披針形～卵状披針形。[H]

【分布】北海道、本州（和歌山県以東の主に太平洋側）。朝鮮。

【県内の状況】県北部に複数の産地が知られるが、いずれも個体数は少ない。近年は消滅する個体が相次ぎ、急減している。山武市でサンブイノデ、成田市と多古町でシモフサイノデのいずれもイワシロイノデを親種とする新雑種が発見されている。

【保護対策】生育地の林床の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岡武利 2018 イノデ属 神奈川県植物誌上巻：146 / 海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ：411

【写真】2005.5.5 多古町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ツクシヤブソテツ オシダ科

2009	C
2017	C
2023	B

Cyrtomium tukusicola Tagawa

【種の特性】常緑性。側羽片は8対前後、長楕円形で基部はくさび型。包膜の中心部は暗黒色。[H]

【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。中国。

【県内の状況】県南部の丘陵地の湿潤な沢沿いに生育があるが、個体数は少ない。

【保護対策】森林の保全が望ましい。鹿による食害の防御が重要な課題である。

【文献】海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ：429

【写真】2012.12.14 市原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ヒロハヤブソテツ オシダ科

2009	C
2017	C
2023	B

Cyrtomium macrophyllum (Makino) Tagawa

【種の特性】常緑性。羽片は5～7対。頂羽片は大型で3裂状。孢子囊群は中肋寄りに散在。包膜は円形で灰白色。[H]

【分布】本州（新潟県ー千葉県以西）、四国、九州。中国、台湾、南アジア。

【県内の状況】県南部の丘陵地の湿潤な沢沿いに生育があるが、個体数は少ない。

【保護対策】森林の保全が望ましい。鹿による食害の防御が重要な課題である。

【文献】海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ：430 / 谷城勝弘 2021 千葉県及び関東域のオシダ科、千葉県植物研究所研究資料：42

【写真】2004.12.11 君津市 谷城勝弘

(中村建爾 / 谷城勝弘)



B シノブ シノブ科

Davallia mariesii T.Moore ex Baker

2009	B
2017	B
2023	B

【種の特性】夏緑性。鱗片を密につけた根茎は岩上や樹幹上に長く這う。葉は広い間隔をあけて生じる。葉柄は5～15cm、葉身は3～4回羽状深裂、三角状卵形で葉柄よりやや長い。葉質は硬紙質～革質。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は裂片の先端に向かって開いたコップ状。[E]

【分布】北海道（渡島）・本州・四国・九州・琉球。朝鮮半島南部、中国、台湾。古くから「忍玉」として、風鈴や観賞用に用いられている。

【県内の状況】房総丘陵の岩上に稀に見られる。生育地の多くは観賞用に採取されている。

奥多摩や秩父などの山地の堅い岩上や樹上にはしばしば見かけるが、県内では似た環境が少ない。

【保護対策】生育している岩全体とそれを取り巻く環境を広く維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：438 / 新千植誌 1975：487 / 倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 4：226 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：115 / 千植誌 2003：15, 24

【写真】1999.10 市原市

標本：CBM BS-174925

（村田威夫）



B ビロードシダ ウラボシ科

Pyrrosia linearifolia (Hook.) Ching

2009	C
2017	C
2023	B

【種の特性】常緑性。根茎は長く這い、葉身は線形で単葉5～10cm、基部は次第に狭まり葉柄とつながるため、葉柄ははっきりしない。植物全体に、特に下面には淡褐色の星状毛が密に生えて、柔らかいビロード状である。山地の岩上や樹幹に着生する。[E]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】県南部の限られた地域に少数分布しているが、森林の伐採などによる環境の変化で個体数は減少傾向にある。県内での生育地が限られていることから、ランクの変更を行った。

【保護対策】生育環境をよりよく維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：497. / 倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 2：600-608 / 千植誌 2003：61, 74

【写真】2011.11.28 南房総市 水野大樹

（川名興／中村建爾／
水野大樹 追補）



B ヒメノキシノブ ウラボシ科

2009	C
2017	C
2023	B

Lepisorus onoei (Franch. et Sav.) Ching

【種の特性】常緑性。ノキシノブの發育不良の個体とまぎらわしい時もあるが、ノキシノブに比べて根茎が2mmほどと細く、葉も少し離れ気味に出ることに注意すれば、同定は容易である。山地や山麓のやや日当たりの良い樹幹や岩上に着生する。[E]

【分布】北海道、本州、四国、九州。朝鮮。

【県内の状況】全国的にはかなり広範囲に分布する種であるが、県内には極めてその産地は少なく、成田市、清澄山、君津市、八千代市に採集記録があるのみである。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）（1981）日本のシダ植物図鑑 2：398-407／千植誌 2003 62,74

【写真】2005.3.31 清澄山 谷城勝弘

（村田威夫・倉俣武男 追補）



B ヌカボシクリハラン ウラボシ科

2009	A
2017	A
2023	B

Lepidomicrosorium superficiale (Blume) Li Wang

【種の特性】常緑性。山地林下の樹幹や岩上に生育する。根茎は長く横に這う。葉は長さ30cmほどになり、葉柄に狭い翼がつく。葉質はややかたく、革質で黄緑色、表裏無毛。孢子嚢群は葉裏一面に散在する。[E]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インドシナ半島。

【県内の状況】千葉県植物誌（1958）に清澄山に産することが記述されている。行方・倉田による「日本産シダ植物総目録」（1961）の安房産の記述もこれに基づいている。鴨川市（清澄山系）で1979年に採集されたことが記録されており、また、高塚山付近でも記録されている。県南の外房域に顕著な群落がみられる。

【保護対策】生育環境の維持・保全が望ましい。

【文献】千植誌 1958：442.／倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 2：492-497／千植誌 2003：62,72

【写真】1998.8 清澄山 村田威夫

（倉俣武男）





C ヒカゲノカズラ 2008年3月 佐倉市 村田威夫 59ページ



C イヌイワヘゴ 2020年5月12日 市原市 荒井智貴 64ページ



D ツクシイワヘゴ 2008年10月 佐倉市 倉俣武男 69ページ



C オシダ 2008年11月 佐倉市 倉俣武男 64ページ



C エンシュウベニシダ 2008年12月 佐倉市 倉俣武男 65ページ



C キノクニベニシダ 2010年7月3日 多古町 谷城勝弘 65ページ



D サイゴクイノデ 2008年12月 佐倉市 倉俣武男 70ページ



C ナガサキシダ 2001年8月26日 高宕山 村田威夫 63ページ



D ハチジョウベニシダ 2021年6月2日 匝瑳市 谷城勝弘 69ページ



C ウチワゴケ 2004年 清和県民の森 村田威夫 60ページ



C カタイノデ 1989年 多古町 村田威夫 66ページ



C カタヒバ 1997年8月20日 三石山 村田威夫 59ページ



D ヒカゲワラビ 2007年8月20日 村田威夫 69ページ



C オオキノオ 1997年8月 清澄山 村田威夫 61ページ



D オオキヨズミシダ 2001年 君津市 大場達之 70ページ



C サクライカグマ 2008年11月 佐倉市 倉俣武男 65ページ

C ヒカゲノカズラ ヒカゲノカズラ科

2009 C

2017 C

Lycopodium clavatum L. var. *nipponicum* Nakai

2023 C

【種の特性】常緑性。茎は地表を長く匍匐し、所々で分岐する。茎は葉を密生する。葉は線形～線状披針形、先端は尖り、全縁。胞子囊穂の柄は直立し、先端に3～6個の胞子囊穂をつける。胞子囊穂は円柱状。山地の林床、路傍の崖など比較的明るい場所に生育する。[Ch]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、フィリピン、東南アジア、ヒマラヤ、ロシア、ヨーロッパ、北米。北半球の温帯、ニューギニア、アフリカにも同種あるいはごく近似種が分布する。

【県内の状況】県外の温帯域で分布している所では大きな群落をつくることが多いが、県内では小さな群落で、胞子穂をつけない個体が多い。

県内全域に点々と分布が確認されているが、それぞれの地域では個体数は限られている。近年では、環境変化により減少傾向にあり、生育が確認できない産地も多い。

【保護対策】林の明るい林床に生育している所が多いので、下草の管理を維持する。

【文献】千植誌 1958：199-208 / 新千植誌 1975 481-482 / 日本のシダ植物図鑑 1990 6：30-50 / 日本の野生植物シダ 1992：46 / 千植誌 2003：3, 18

(川名興／村田威夫 追補)



C カタヒバ イワヒバ科

2009 C

2017 C

Selaginella involvens (Sw.) Spring

2023 C

【種の特性】常緑性。地下茎は岩上の泥や砂礫やコケの間に匍匐。地上茎は3回羽状に分岐し、卵形に広がる。主軸には卵形の葉をまばらにつける。小枝の腹葉は卵形で開出し、やや密につける。胞子囊穂は小枝に1個頂生し、四角柱状。[E]

【分布】本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球。朝鮮半島南部、中国、台湾、熱帯アジア。

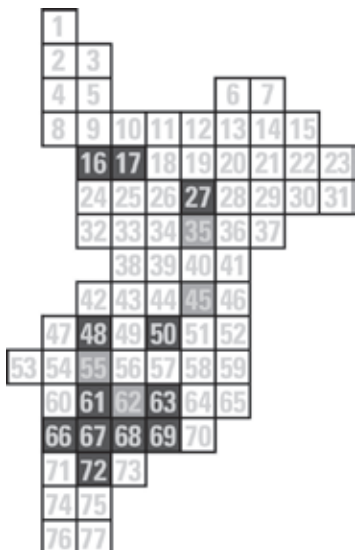
【県内の状況】県南部から房総丘陵地の明るい岩上にやや稀に見られる。近年庭の石垣や園芸品の鉢にカタヒバに似たイヌカタヒバが見られる。背葉の辺縁に白い膜が見られ、背葉の列はカタヒバのように盛り上がる点で区別できる。

明るい林の岩上にも見られる。本来の生育地は石垣島で、絶滅危急種である。

【保護対策】岩上に生育するので、周辺も含め、広く生育環境を維持する。

【文献】行方沼東（1958）千葉県に於ける羊歯植物の分布。千植誌 1958 199-208. / 新千植誌 1975 482. / 日本のシダ植物図鑑 1981 2：476-483. / 千植誌 2003 3, 17

(村田威夫)



C ヒロハハナヤスリ ハナヤスリ科

2009 C

2017 C

Ophioglossum vulgatum L.

2023 C

【種の特性】4月頃葉を出し、6月に胞子を成熟させ、夏には地上部は枯れる。小型のシダ。根茎は短い円柱状で直立する。栄養葉は、広披針形～広卵形、葉先は鈍頭～円頭。草質は、軟らかい紙質。類似種のコヒロハハナヤスリとは栄養葉の基部は胞子葉の柄を包むこと、葉脈は細かく網目をつくりさらに二次脈が発達している。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。明るい林床や林縁や路傍や原野に群生する。

【県内の状況】県南部から市原市、多古町、山武市、成田市などにやや稀に分布。下総台地の生育地は開発により消滅した箇所が見られる。

コヒロハハナヤスリに比べて少ない。

【保護対策】比較的明るい林を好むので、林の下草の適切な管理を維持する。配偶体は地中性で菌根性であるので、土壌環境の維持も望ましい。

【文献】千植誌 1958：199-208 / 新千植誌 1975：483 / 倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 6：278 / 同 1997 日本のシダ植物図鑑 8：61 / 千植誌 2003：5, 18

(村田威夫)



C ナツノハナワラビ ハナヤスリ科

2009 C

2017 C

Botrychium virginianum (L.) Sw.

2023 C

【種の特性】夏緑性。根茎は肉質で円柱状、短く直立。肉質の根を多数生じる。葉は年に1枚出す、草丈は25～70cm、担葉体は葉の半分の日長、栄養葉は無柄で3出葉、3～4回羽状複葉、軟らかい草質、淡い緑色。胞子葉は葉身の基部から分岐、胞子穂は狭三角状で円錐花序的に3～4回羽状に分岐。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球の温帯～暖帯。

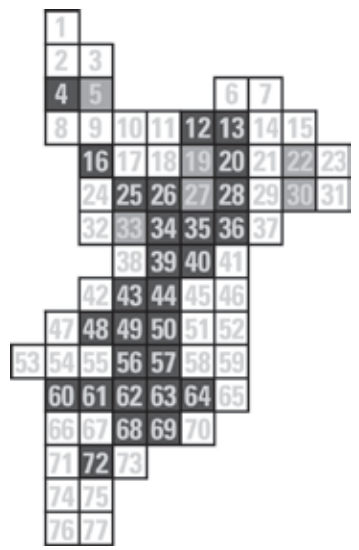
【県内の状況】房総丘陵から下総台地にかけての、やや湿った林の林床にやや稀に分布。オオハナワラビ、フユノハナワラビのように大きな群落をつくらない。それぞれの生育地では5～10個体のみ見られる。

近年環境の変化で生育地が減少している。

【保護対策】配偶体は地中性で長命で、菌根性であるので、特に土壌の環境の変化に、分布が大きく影響を受けやすいので、土壌環境と林内の環境を維持する。

【文献】千植誌 1958：199-208 / 新版千植誌 1975 483 / 日本のシダ植物図鑑 1987 6：238 / 日本の野生植物シダ 1992：69. / 千植誌 2003：5, 18

(村田威夫)



C	ナガホノナツノハナワラビ	ハナヤスリ科	2009	C
			2017	C
	<i>Botrychium strictum</i>	Underw.	2023	C

【種の特性】 夏緑性。ナツノハナワラビに似たハナワラビ。栄養葉は2～3回羽状深裂、小羽片の基部の裂片は羽軸に流れて翼になる。孢子葉は穂状で細長く、2回羽状で羽片が密につく。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。やや寒冷地に分布の中心がある。北半球の温帯。

【県内の状況】 ナツノハナワラビに比べて、房総丘陵における分布は少ない。県北部のスギの林床に生育。生育地での個体数は少ない。ナツノハナワラビと混生している生育地もある。北総地域では、生育地が

開発により消失する所が増えている。

【保護対策】 配偶体は地中性で長命で、菌根性であるので、特に土壌の環境の変化に、分布が大きく影響を受けやすいので、土壌環境と林内の環境を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958：199-208 / 新千植誌 1975：483 / 日本のシダ植物図鑑 1987 5：2-7 / 日本の野生植物シダ 1992：69 / 千植誌 2003：5,18

(村田威夫)

C	コウヤコケシノブ	コケシノブ科	2009	C
			2017	C
	<i>Hymenophyllum barbatum</i>	(Bosch) Baker	2023	C

【種の特性】 常緑性。根茎は長く這い、葉柄は2～5cm、葉身は3-8cm、やや長めの楕円形で2-3回羽状に深裂する。裂片の縁には不規則な鋸歯があり、また葉の裏面脈上には褐色の毛が残る。包膜は2弁状で各弁にも尖った鋸歯がある。湿気の多い山中の樹幹や岩上にマット状になって生じる。[E]

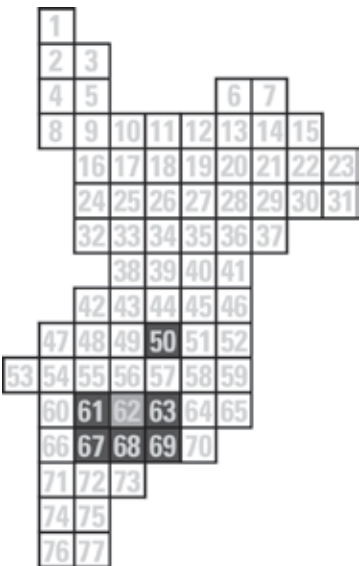
【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インドシナ、インド、タイ、ネパール、ブータン。

【県内の状況】 清澄山を中心に県南部に生育地が点在するが森林内の乾燥などの変化により、個体数は減少している。

【保護対策】 森林の保全と生育環境を維持することが望ましい。

【文献】 倉田・中池（編）1987 日本のシダ植物図鑑 5：36-49 / 千植誌 2003：8,20

(中村建爾／水野大樹)



C	ウチワゴケ	コケシノブ科	2009	C
			2017	C
	<i>Crepidomanes minutum</i>	(Blume) K.Iwats.	2023	C

【種の特性】 常緑性。根茎は糸状で長く這い、黒褐色の毛が密に生じる。葉身は0.5～1.5cm、扇状で縁は不規則に切れ込む。孢子葉群は裂片の先につき包膜はコップ状で縁は広がっている。山地林下の日陰で湿った岩上や樹幹に着生している。[E]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球・小笠原。ロシア東部、朝鮮、台湾、中国、フィリピン、インドシナ、マレーシア、インドネシア、ミクロネシア、ポリネシア、ベトナム、インド、スリランカ、オーストラリア。

【県内の状況】 現在、主に県中部から南部にかけての林内に生育が確認されているが、林の伐採による乾燥など環境の変化により減少しつつある。

【保護対策】 本種が生育している岩上や樹幹などの状態を保つために周囲の環境を維持することが望ましい。

【文献】 1987 日本のシダ植物図鑑 5：24-35 / 中池敏之 1992 新日本植物誌シダ篇改訂増補版：107 / 千植誌 2003：9,20

(中村建爾／水野大樹)



C	オオアカウキクサ	サンショウモ科	2009	C
			2017	C
	<i>Azolla japonica</i>	(Franch. & Sav.) Franch. & Sav. ex Nakai	2023	C

【種の特性】 浮遊性の小型シダ。多年草。植物体は3ないし5角形。葉は瓦状に互生する。上下2裂片に分かれる。上側の裂片は水面に浮遊し赤味を帯びる。水中葉の間に異形孢子嚢をつける。日本固有種。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 県内の水田の至る所に普通に見られたが除草剤の使用と冬季水田の乾田化（水を抜くこと）によって激減した。又、人為的な開発の波により水田そのものが無くなったことや放棄水田や休耕地が増えたことも激減に拍車をかけたと思われる。減農薬や無農薬によって耕作される篤農家の水田や農家や家庭排水などの流入しない池沼にのみ見られる。但し、このグループは近年化学肥料に替わる有機肥料として開

発された人工雑種アイオアカウキクサの異常繁殖により、多分に産地が置き換わっている可能性大であり、同定も極めて困難である。

【保護対策】 水田を減農薬、無農薬で耕作してもらえよう協力していただくこと、池や沼に農業や家庭排水が流れ込まないように対策も必要。水生のシダは前年まで繁茂しても翌年生育皆無になることがある。オオアカウキクサについては近年外来種が関西を中心に猛威を振るっており今後千葉県を含む関東にも侵入するおそれがある。

【文献】 千葉県植物誌 2003 64,75

(倉俣武男)



C	オオキジノオ	キジノオシダ科	2009	C
			2017	C
	<i>Plagiogyria euphlebia</i> (Kuntze) Mett.		2023	C

【種の特性】常緑性。葉は単羽状で、羽片に短い柄がある。秋に胞子葉を生じる。暖地の林床に生育する。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】県南部の清澄山系周辺を中心に生育する。近年、県北部の佐倉市、多古町でも発見されている。清澄山系ではシカによる食害が激しく、個体数は激減している。

【保護対策】動物による食害から守る方策を講ずることが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1：324／千植誌

2003：14

（村田威夫／谷城勝弘 追補）



C	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ科	2009	A
			2017	A
	<i>Dennstaedtia scabra</i> (Wall. ex Hook.) T.Moore		2023	C

【種の特性】常緑性。根茎は長く、顕著な赤褐色の毛をもつ。葉柄、葉軸は赤褐色。山地性。[H]

【分布】本州・四国・九州。中国中南部、朝鮮、台湾～南アジア。

【県内の状況】県北東部の多古町、香取市のスギ林に小群落を形成している。1985年に多古町で確認された群落は根茎により栄養繁殖している。

【保護対策】生育地と周辺の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城・村田

1986 コバノイシカグマ

千葉県に出現。シダ会報

2(66):9／倉田・中池（編）

1987 日本のシダ植物図鑑

5：238／谷城 1988

千葉県東部におけるシダ

生育地の新発見。千生

誌 38(1)：29-30／千植

誌 2003：13／千植写真

2005：331

（谷城勝弘）



C	ナチシダ	イノモトソウ科	2009	C
			2017	C
	<i>Pteris wallichiana</i> J. Agardh		2023	C

【種の特性】常緑性～夏緑性。根茎は短く斜上。1.5m 以上になる大型のシダである。葉身基部は3つに分岐し、5角形。葉質は草質。胞子囊群は裂片の辺縁に沿って長くつく。裂片の辺縁が反転して透明な偽包膜になる。暖地の陰湿な林床に生育し、群落を形成することが多い。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国南部・九州・琉球。アジアの亜熱帯～熱帯。

【県内の状況】かつては、清澄山周辺の県南部の限られたスギ林に小群落を形成していた。当時分布の東限だったが、2000年代以降、草食

獣の食害を受けにくいことと温暖化に伴い、県南部に広く分布が見られ、さらに市原市、千葉市、佐倉市、成田市等まで分布を広げてきている。

【保護対策】よく成長したスギ林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：486／倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1：264-269／千植誌 2003：12, 22

（倉俣武男／村田威夫 追補）



C	コハチジョウシダ	（ハチジョウシダモドキ）イノモトソウ科	2009	C
			2017	C
	<i>Pteris oshimensis</i> Hieron.		2023	C

【種の特性】常緑性。根茎は斜上し、葉柄は30～50 cm、葉身は長楕円形で約50 cmに達する。2回羽状で羽片は10対前後あり、頂羽片がはっきりしている。胞子囊群は裂片の辺縁に沿って長くついている。温暖な山地の安定した林床に生育する。[H]

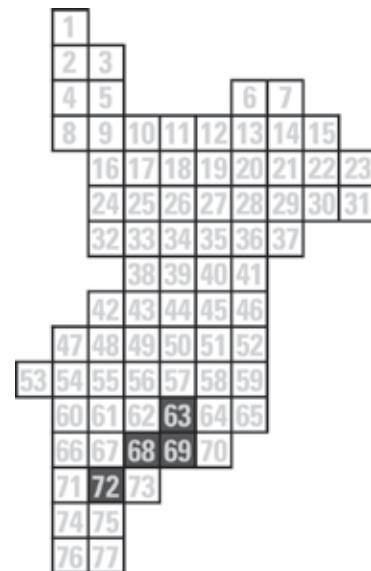
【分布】本州（千葉県以西～紀伊半島）・四国・九州（鹿児島県奄美大島まで）。中国、インドシナ。

【県内の状況】これまで生育が確認されていたのは清澄山の緩やかな斜面の林床など数ヶ所であったが、三石山や県南部でも新たに発見され

ている。いずれも個体数は多くない。ハチジョウシダモドキの和名が当てられることもあるが、本書では従来からのコハチジョウシダの和名を採用した。

【保護対策】森林の保全と生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1：242-246／中池 1992 新日本植物誌シダ篇 改訂増補版：207／千植誌 2003：12, 21（中村建爾／水野大樹 追補）



C	クジャクシダ	イノモトソウ科	2009	C
			2017	C
	<i>Adiantum pedatum</i> L.		2023	C

【種の特性】 夏緑性。根茎は短く匍匐し、葉を叢生する。葉柄は光沢があり、紫褐色～赤褐色。葉身は孔雀が尾羽を広げたように見える美しいシダ。胞子嚢群は裂片の上縁に沿って生じる。包膜は横に長い。山地の林下の地上や岩の上に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州（福岡県）。東北地方では大きな群落が見られる。

【県内の状況】 房総丘陵の崖の下部に群生していた所は、草食獣による食害の影響を受けて、激減している。崖上部は群生している。県北部ではやや稀にスギ林の林床に1～数株見られた。林の開発や林床の管理が充分に行われず他の下草の繁茂により、消滅した場所が多い。

【保護対策】 生育地が減少しているので保護が必要である。スギ林の生育環境を維持するために適度な下草刈りをする。また、房総丘陵周辺では草食獣の食害から保護が必要である。

【文献】 千植誌 1958：199-208
／新千植誌 1975：485
／日本のシダ植物図鑑 1979 5：138
／千植誌 2003：11, 21
(村田威夫)



C	クモノスシダ	チャセンシダ科	2009	C
			2017	C
	<i>Asplenium ruprechtii</i> Sa.Kurata		2023	C

【種の特性】 常緑性。根茎は短い。葉を叢生。葉柄は1～10cmで狭い翼がある。葉身は単葉で、狭披針形～狭三角形、長さ2～20cm、葉の辺縁は多少波状になる。葉の先端は長く伸び、先端近くに不定芽を生じることが多い。胞子嚢群は線形で長さ1～5 mm、膜質の包膜がある。[E]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。山地の石灰質の岩上に生育する。

【県内の状況】 県南部の清澄山・三石山周辺の陰湿な岩上に生育。成田山や市川市の公園の庭石上に生育している記録があったが、他の地域から石に付着して運ばれてきたものと思われる。岩の周りの林の伐採などで、乾燥化して、消滅する所が出てきている。

【保護対策】 岩全体の保護と、それを取り巻く環境を広く維持することが望ましい。

【文献】 行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布・千植誌 1958：199-208
／新千植誌 1975：496
／倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 2：152
／岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：143
／千植誌 2003：5873
(村田威夫)



C	ハウビシダ	チャセンシダ科	2009	C
			2017	C
	<i>Hymenasplenium hondoense</i> (N.Murak. & S.-I.Hatan.) Nakaike		2023	C

【種の特性】 常緑性。根茎は長く這い、葉柄は5～10cm。葉身は10～20cmで、単羽状、羽片は15～20対ある。山地の陰湿な林床や水のしたたるような岩面や崖地に生育する。[E]

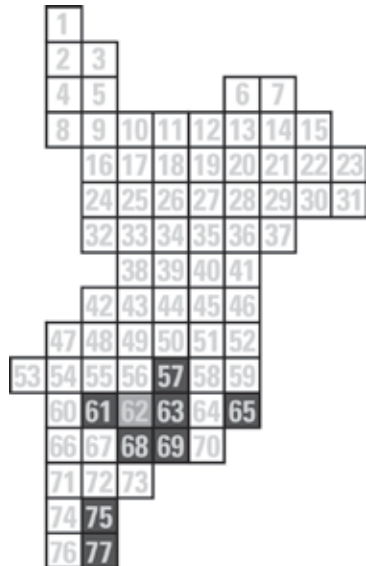
【分布】 本州（石川県、千葉県以西）・四国・九州・琉球・小笠原。朝鮮、台湾、中国、フィリピン、ヒマラヤ。

【県内の状況】 県南部の山地に分布が点在しており、生育地は陰湿な崖地に群生している。しかし、現在林内の乾燥などの環境変化により個体数は減少傾向にある。

【保護対策】 山林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1975：496。
／1981 日本のシダ植物図鑑 2：218-224
／中池・山本 1996 ハウビシダ、ナンゴクハウビシダの分布・千葉中央博自然誌報告 4(1)：27-32
／倉田・中池（編）1997 日本のシダ植物図鑑 8：56
／千植誌 2003：59, 74

(川名 興／中村建爾 追捕
／水野大樹)



C	カラクサイヌワラビ	メシダ科	2009	C
			2017	C
	<i>Athyrium clivicola</i> Tagawa		2023	C

【種の特性】 夏緑性。根茎は直立～斜上、葉を叢生する。葉身は2回羽状で、楕円形～長楕円形、上部の側羽片は急に狭くなる。最下前側の裂片は特に大きく発達し羽軸に重なる。この点で類似のヒロハイヌワラビと区別できる。胞子嚢群は小羽片の中肋寄りにつく。包膜は三日月形で、鉤形や馬蹄形のものほとんど見られない。ヤマイヌワラビとの相違。[H]

【分布】 北海道（南西部）・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ロシア東部。西日本に多く、関東地方には少ない。

【県内の状況】 房総丘陵の照葉樹と落葉樹の混交林や北総・多古町・山武市・佐倉市のスギ林や林縁部にややまれに生育。それぞれの地域での個体数は少ない。

【保護対策】 生育している林全体の環境の維持に努めることが望ましい。

【文献】 千植誌 1958：199-208
／新千植誌 1975：487
／日本のシダ植物図鑑 1985 6：434
／日本の野生植物シダ 1992：238-239
／千植誌 2003：52-53, 70
(村田威夫)



C	オニヒカゲワラビ	メシダ科	2009	C
			2017	C
			2023	C
<i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa				

【種の特性】常緑性。地上部の一部が冬期に枯れることがある。根茎は太く横走、葉を密につける。葉は 150 cm 以上になることもある大型のシダ。葉柄は太く基部には汚褐色で披針形で先が長く尖り辺縁に突起のある鱗片をやや密につける。葉身は広卵状三角形、2 回羽状複生～3 回羽状深裂。小羽片の基部は切形で短い柄がある。孢子嚢群は線形で小羽片の中肋寄りにつく。包膜は薄い膜質で、三日月形、辺縁に細裂。[H]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】房総丘陵の林の陰湿な林床にやや稀に生育。草食獣の被害がなく、群生地も見られる。太平洋に面した下総台地と房総丘陵の縁から



下総東部のスギ林に分布。成長がよい大株が多い。分布をやや広げている。

【保護対策】生育している林全体の陰湿な環境の維持することが望ましい。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布。千植誌 1958：199-208 / 新千植誌 1975：489 / 倉田・中池（編）1987 日本のシダ植物図鑑 3：146 / 千葉県植物誌 2003：54, 71

（村田威夫）

C シロヤマシダ メシダ科	2009	D
	2017	C
	<i>Diplazium hachijoense</i> Nakai	
	2023	C

【種の特性】常緑性（県内ではほぼ夏緑性）。根茎は這ってやや太い。葉柄は 30-50cm、基部は暗褐色で膜質の落ちやすい披針形の鱗片をつける。葉身は 50-100cm、三角状卵形で、2 回羽状深裂。羽片や小羽片には短い柄がある。山地の林床の湿った場所にやや群生することが多い。[H]

【分布】本州（関東南部、北陸地方以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】本種は 1977 年に県南部の南房総市のスギ林の中にオニヒカゲワラビなどと狭い範囲ではあるがやや群生しているのが最初に



見いだされたが、それ以降県内の他の場所でも数ヶ所の生育が確認されている。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池 1983（編）日本のシダ植物図鑑 3：126-132 / 千植誌 2003：54, 71

（中村建爾／水野大樹）

C	オオヒメワラビ	メシダ科	2009	C
			2017	C
			2023	C
<i>Deparia okuboana</i> (Makino) M.Kato				

【種の特性】夏緑性。オオヒメワラビモドキに似るが葉脈は下面に盛り上がりしない。小羽片の裂片はほぼ全縁で、小脈は単生。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県南部の清澄山系を中心とする丘陵地に記録があるが、個体数は少ない。近年は確認できない既知産地が増えている。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1990 日本のシダ植物図鑑 6：788 / 千植誌 2003：5

（谷城勝弘）



C	ナガサキシダ	オシダ科	2009	C
			2017	C
			2023	C
<i>Dryopteris sieboldii</i> (Van Houtte ex Mett.) Kuntze				

【種の特性】常緑性。根茎は短く、葉柄は 30～50cm、淡褐色でやや太い。葉身は 40～60 cm で 1 回羽状複葉で側羽片は 3～6 対、同形の頂羽片がある。山林下に生育する。[H]

【分布】本州（新潟県以西、千葉県以西の太平洋側）・四国・九州。中国。

【県内の状況】県内の分布域はおもに南部にやや広く点在するが、個体数は少ない。ナガサキシダの和名は長崎に知られていたことに因む。

【保護対策】林床などの生育環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：491 / 倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1：484-489 / 同 1997 日本のシダ植物図鑑 8：39 / 中池 1992 新日本植物誌シダ篇 改訂増補版：446 / 千植誌 2003：37, 47
（川名 興／中村建爾／水野大樹 追補）



C オシダ オシダ科	2009	C
	2017	C
	2023	C
<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai		

【種の特性】常緑性。根茎は短く太い、葉柄は10～30cmで斜上する。基部には茶褐色の鱗片を密生する。葉身は倒披針形50～120cm、2回羽状に深裂し、下部の羽片は次第に短くなる。羽片の表面の葉脈はくぼんでいる。山地の林床に生育し、県外の適地では大きな群落をつくる。[H]

【分布】北海道・本州・四国。朝鮮、中国北部、ロシア東部。

【県内の状況】県中・北部のスギ林下に点々と生育している。生育地では、群生することなく個体数は数株である。オシダが片親であるオ



クマワラビとの雑種のフジオシダはオシダよりもやや南の地域に生育が見られるのも興味深い。個体数は少ない。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田 1952 千葉県における温帯性植物の分布。千葉県植物誌基礎資料 3(1): 10-15 / 1985 日本のシダ植物図鑑 4: 344-361 / 千植誌 2003: 38, 65 (中池敏之／中村建爾 追補／水野大樹)

C イワヘゴ オシダ科	2009	D
	2017	C
	2023	C
<i>Dryopteris atrata</i> (Wall. ex Kunze) Ching		

【種の特性】常緑性。根茎は塊状。束生する葉は80cmほどになる。葉身は単羽状。羽片は20～30対。最下部の羽片は中部の羽片の1/2ほどに短くなる。葉柄の鱗片は黒褐色で辺縁にまばらではあるが顕著な突起がある。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州（大分）。朝鮮、台湾、中国、ヒマラヤ、スリランカ。

【県内の状況】丘陵地、山地の林床に生育する。下総台地と清澄山系に分布の拠点があり、その中



間の上総地域にも点々と見られるが全体に個体数は少ない。しかし多古町のように林床の斜面に大群落をつくところもあり、葉長1m近い大型品に出会う。

【保護対策】生育する林床の環境の保全が大事である。

【文献】新千植誌 2003: 38, 47

(倉俣武男)

C イヌイワヘゴ オシダ科	2009	
	2017	
	2023	C
<i>Dryopteris cycadina</i> (Franch. & Sav.) C.Chr.		

【種の特性】常緑性。イワヘゴに似るが葉柄基部の鱗片が褐色なこと、生時の観察で羽片の付き方（葉軸に対する角度）がイワヘゴと異なるなど相違がある。イワヘゴより陽地に生育する。

【分布】本州（関東地方以西）・四国・九州・朝鮮・中国・台湾

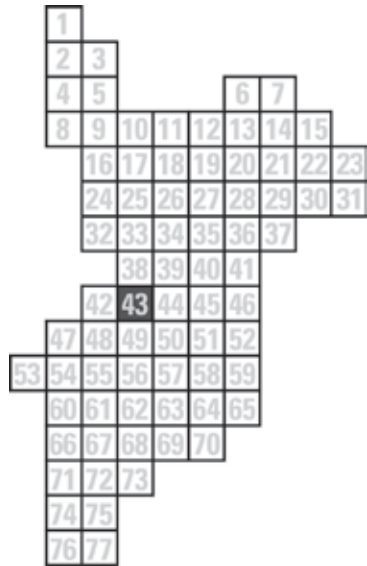
【県内の状況】県中、北部に産する。生育地はイワヘゴより陽地の林床である。

【保護対策】明るい林床の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】神奈川県植物誌 2018 上／海老原 日本産シダ植物標準図鑑

II 2017 学研

(倉俣武男)



C オオクジャクシダ オシダ科	2009	C
	2017	C
	2023	C
<i>Dryopteris dickinsii</i> (Franch. et Sav.) C. Chr.		

【種の特性】常緑性。単羽状葉。ツクシオオクジャクに類似しているが、小羽片の側脈は3～4対（ツクシオオクジャクは2～3対）。ツクシオオクジャクの胞子嚢群は、より辺縁寄りにつく。山地林の湿った林床に生育する。[H]

【分布】北海道（奥尻島）・本州・四国・九州。中国揚子江流域。日本海側に多い。

【県内の状況】県南部では沢沿いのスギ林2から3ヶ所で見られ、生育状況は良好である。県北部では、平坦なスギ林下に見られ、やや小

形である。

【保護対策】陰湿地を好むので、森林を広く保全することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1985 日本のシダ植物図鑑 4: 362-371 / 千植誌 2003: 38, 48

(村田威夫／倉俣武男 追補)



C サクライカグマ オシダ科

Dryopteris gymnophylla (Baker) C.Chr.

2009	D
2017	D
2023	C

【種の特性】常緑性。根茎は短く這う。葉柄は淡緑色で30～45 cm、基部に披針形で褐色の鱗片がある。葉身は三角状広卵形で25～40 cm、3回羽状深裂、最下羽片の柄は特に長く2～3 cmになる。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁との中間につく。山地の明るい林床の主に斜面などに生育する地上性のシダである。[H]

【分布】本州（宮城県以南）・九州（大分）。朝鮮、中国、タイ。

【県内の状況】佐倉市や成田市など下総台地のスギ林の中にやや稀に生育している。2000年、市原市で確認されており、これが下総以外では今のところ唯一の産地である。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1979日本のシダ植物図鑑1：448-451／野草の友2001市原植物研究会：71／千植誌2003：39, 65（中村建爾／倉俣武男 追補）



C ナンカイイタチシダ オシダ科

Dryopteris varia (L.) Kurata

2009	D
2017	D
2023	C

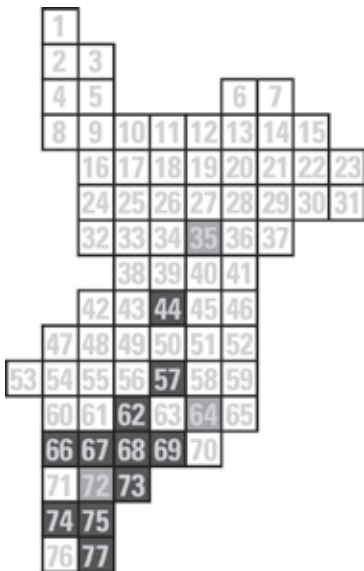
【種の特性】常緑性。本種を含むイタチシダ類の葉柄基部の鱗片は黒色であるが一種、本種のみが赤褐色の鱗片を密生する。葉質は厚く、2回羽状、葉身上部は矛状になる。最下羽片下側の第1小羽片は著しく長い。葉面は光沢のある型とくすんだ緑色でつやのない型がある。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、フィリピン、インドシナ、インド。

【県内の状況】県南部に産地が集中している。林床の岩上又は岩壁のようなどところに生えることが多い。

【保護対策】生育地の環境保全につとめることが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1979日本のシダ植物図鑑1：494-502／同1997日本のシダ植物図鑑8：39／神植誌2001／千植誌2003：39, 65（倉俣武男）



C キノクニベニシダ オシダ科

Dryopteris kinokuniensis Sa.Kurata

2009	
2017	D
2023	C

【種の特性】常緑性。鱗片は中軸に対し直角に近い角度でつく。鱗片の色がやや明るく、中軸が紅紫色を帯びる。孢子嚢群は小羽片の中肋と辺縁の中間につくことが多い。

【分布】本州（伊豆諸島・神奈川県以西）・四国・九州。

【県内の状況】主に北総地域で点々と確認されているが、ベニシダやトウゴクシダとの区別が難しいため、認識されていなかった可能性も考えられ、今後新たな産地が期待される。その一方で樹林の伐採、土地

開発などにより生育地の減少が懸念される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】海老原2017日本産シダ植物標準図鑑／千植誌2003：40, 67（千葉道徳）



C エンシュウベニシダ オシダ科

Dryopteris medioxima Koidz.

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】常緑性。葉柄・葉軸には灰褐色～汚褐色の光沢の少ない披針形の鱗片をやや密につける。外形はマルバベニシダとサイゴクベニシダの中間を示す。すなわち孢子嚢群はマルバベニシダに似て羽軸にくっつくように位置し、葉全体の輪郭はサイゴクベニシダに似る。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】1990年、佐倉市において県内で初めて確認された。現地はその後開発されてしまい消失した。近年、下総台地において次々と産地が判明している。

【保護対策】生育するスギ林の保全が望ましい。佐倉市に自生する本種は場所そのものが貴重種の移植可能な地として機能しており現在最も安全な本種の自生地であろう。

【文献】神植誌2001／千植誌2003：40, 66／倉俣2005シダ会報3(41):19-21（倉俣武男）



C	ギフベニシダ オシダ科	2009	C
		2017	C
		2023	C

Dryopteris kinkiensis Koidz. ex Tagawa

【種の特性】常緑性。根茎は斜上。葉柄に汚れた暗褐色の鱗片をつける。葉身は卵状楕円形～長楕円形で、葉質はやや厚い紙質。孢子嚢群はやや中肋寄りにつく。包膜は全縁。サイゴクベニシダに類似している。サイゴクベニシダは葉柄や中軸に赤褐色の鱗片を密につける。森林性。[H]

【分布】本州（宮城県・千葉県以西）・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では、1970年に柏市で初めて確認された。その後、県北部全域から県中部に点在していることが明らかになった。全国的には山麓の林縁部や人里の石垣に生育することが多いが、県内ではスギ林に生育する。香取市の産地は分布の東限である。

【保護対策】生育地と周辺の環境を良好に維持する。

【文献】伊藤 1970 千生誌 20(1)：13-14 / 齊藤 1970 シダ会報 2(2)：7 / 新千植誌 1975：490 / 谷城 (1987) シダ会報 2(71・72)：13 / 谷城・村田 1987 シダ会報 2(69)：19-20 / 谷城 1988 千生誌 38(1)：27-28 / 宮崎 1992 千生誌 41(1)：43-44 / 千植誌 2003：40, 66

(谷城勝弘／村田威夫 追補)



C	オニカナワラビ オシダ科	2009	C
		2017	C
		2023	C

Arachniodes chinensis (Rosenst.) Ching

【種の特性】常緑性。根茎は短く這う。葉は大きく 60～80cm に達し、葉面は金属状の光沢を有する。羽片は 4～6 対あり、頂羽片にならず次第に短くなる。独立種説を採ることが多いが、変種として扱うこともある。[H]

【分布】本州（秋田県以南）・四国・九州。中国。

【県内の状況】北部の下総台地から上総、安房と県全域に亘って分布するが下総台地にやや偏って分布している傾向がある。丘陵地の少し乾いた斜面や林床に生育する。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。佐倉市の住吉神社にかつて本種が何十株となく見られた。開発に伴い、数株を同市内に設けられている保全ゾーンに移植した。

【文献】神奈川県植物誌 2001 / 千植誌 2003：50, 68

(倉俣武男)



C	ナンゴクナライシダ オシダ科	2009	C
		2017	C
		2023	C

Arachniodes fargesii (H.Christ) Seriz.

【種の特性】常緑性または半常緑性。葉柄、葉軸は鱗片が少なく赤褐色で光沢がある。小羽軸の表面は毛が密生する。[H]

【分布】本州（中部以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】県北東部から中部に点在する。生育地ではいずれも個体数は少なく数株程度が確認される。多古町のスギ林にはホソバナライシダと同所的に数十株が群生しており、2005年に雑種のタカヤマナライシダが確認された。

【保護対策】生育地と周辺の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】山本・中池 1995

日本のナライシダ属の分布. 千葉中央博自然誌研究 3(2)：147-160 / 千植誌 2003：49 / 谷城・村田 2004 山武町北東部のシダ植物. 千生誌 54(2)：33-44

(谷城勝弘)



C	カタイノデ オシダ科	2009	D
		2017	D
		2023	C

Polystichum makinoi (Tagawa) Tagawa

【種の特性】常緑性。葉柄下部に光沢のある黒褐色の硬い鱗片をつける。孢子のう群は中肋と辺縁の中間につく。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】県南部の清澄山系、高岩山系とその周辺の沢沿いにまとまって生育していたが、近年はシカの食害によって急減している。県北部にも 1～数個体が点在する。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池 (編) 1979 日本のシダ植物図鑑 1：574 / 千植誌 2003：31 / 谷城・村田 2004 山武町北東部のシダ植物. 千生誌 54(2)：33-44

(村田威夫／谷城勝弘 追補)



C イノデモドキ オシダ科

Polystichum tagawanum Sa.Kurata

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】常緑性。葉柄基部の鱗片は卵状披針形～披針形で光沢はなく辺縁は著しく細裂する。葉身は先が尾状に長く伸びる。胞子のう群は小羽片の縁よりにつく。[H]

【分布】本州（山形県、関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系を中心とする房総丘陵に多産し、下総台地にも点在する。近年、県南部地域ではシカの食害により急減している。県南部の房総丘陵には多種類のイノデ類が生育しており、イノデモドキはこれらとの間にキヨズミイノデ、カタイノデモドキ、アマギイノデ

などの雑種を多産していた。下総台地ではハタジュクイノデ、イワシロイノデモドキなどの雑種を生じている。

【保護対策】生育地と周辺の環境を良好に維持しシカの食害対策の検討を要する。

【文献】倉田・中池（編）日本シダ植物図鑑 3: 444 / 千植誌 2003: 31 / 千生誌 204 54(2): 33-44 / 倉俣 2007 下総佐倉シダノート (6) シダ会報 3 (47): 8-10 / 倉俣 2008 下総佐倉シダノート (7) シダ会報 3 (48): 20+21

(谷城勝弘)

C ヒメオニヤブソテツ オシダ科

Cyrtomium falcatum (L.f.) C.Presl subsp. *littorale* S.Matsumoto ex S.Matsumoto & Ebihara

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】常緑性。海岸の波打ち際近くの岩上に生育する。オニヤブソテツに酷似するが、より小型で羽片は5対以下、下部羽片の基部は心形になり、包膜は灰白色である。形態的にオニヤブソテツとの変化域が重なることがあるので、同定は注意を要する。[H]

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】鉾子市、南房総市（旧白浜町）などの記録がある。

【文献】千植誌 2003 : 34

(谷城勝弘)

D オウレンシダ コバノイシガマ科

Dennstaedtia wilfordii (T.Moore) H.Christ ex C.Chr.

2009	C
2017	D
2023	D

【種の特性】夏緑性。根茎は長く匍匐し群落を形成。葉柄の下部は光沢のある黒褐色。葉身は10～30cm、2回羽状複葉～3回羽状深裂。孢子嚢群は裂片の先につく。包膜はコップ状。山地の林床や岩の割れ目などに生育する小型のシダ。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州中部。アムール、朝鮮、中国、インド。国内では分布の中心は中部地方～北関東～東北地方の山地。

【県内の状況】スギ林等の林床、林縁部の日陰、農道沿いや崖の日陰に生育する。県北部の千葉市、成田市、白井市、柏市、松戸市、八千代市等に点在して知られていたが開発で失われてきている。県中部は養老溪谷と大福山や会所に見られる。県南部では大多喜町に見られる。食獣草の食害が無く、分布をやや広げている。

【保護対策】県北部で分布地が減少している中で、大福山は貴重な生育地である。スギ林等の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：199-208 / 新千植誌 1975：485 / 日本のシダ植物図鑑 1987 5：250-263 / 千植誌 2003：13, 22 (村田威夫)



D フモトカグマ コバノイシガマ科

Microlepia pseudostrigosa Makino

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】常緑性。フモトシダで羽片が全裂し、葉が2回羽状複生となったクジャクフモトシダに似ているが、羽片のものと付近では裂片は完全に独立する。羽軸に流れて狭い翼をつくること(これはクジャクフモトシダの特徴)はない。葉身は長楕円状披針形で、一般に最下羽片はその真上の羽片より短くなることが多い。[H]

【分布】本州(千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県)。朝鮮、インドシナ。

【県内の状況】1975年当時既に市原市以南の上総、安房地方に産することが知られていた。文献によれば本県の最北自生地は現在の富里市である。2007年、東金市において本種の群落が確認されている。

【保護対策】生育するスギ林の保全が望ましい。

【文献】新千植誌 1975：486 / 折目 2007 増補改訂 富里の植物 / 千植誌 2003：13, 23

(倉俣武男)



D コバノヒノキシダ チャセンシダ科

Asplenium anogrammoides H.Chris

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】常緑性。根茎は短く斜上し葉を叢生する。葉柄は2～7cm、披針形の黒褐色で格子状の鱗片をつける。葉身は5～10cm、長楕円形で2～3回羽状に分かれる。イワトラノオとよく似ているが、本種は中軸の表面の溝は中央部が凸状になり、また裂片の先が尖りぎみである。山地の岩上や路傍の石垣の間に生える。[E]

【分布】本州(東北部以南)・四国・九州。朝鮮、モンゴル、中国、インドシナ半島、ヒマラヤ。

【県内の状況】県内での生育地は多くはないが、数か所の産地が知られている。2005年佐倉市においても生育が確認された。成田市のような転住帰化と思われる産地もある。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池(編) 1981 日本のシダ植物図鑑 2：164-173 / 千植誌 2003：60, 73

(中村建爾／倉俣武男 追補)



D タカオシケチシダ メシダ科

Athyrium decurrentialatum (Hook.) Copel. f. *platyphyllum* (H.Itô) Seriz.

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】夏緑性。葉は薄い草質。シケチシダとの区別は難しい。羽軸や小羽軸の裏面に微毛があることが特徴である。山地の林の陰湿な林床に生育する。[H]

【分布】本州(山形、関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】県南部に数ヶ所と県北部の多古町に記録されている。2008年佐倉市でも確認され、標本が得られている。スギ林の陰湿な林床に生育している。

【保護対策】スギ林とその周辺を含む生育環境を維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：488 / 千植誌 2003：57, 72 (村田威夫／倉俣武男 追補)



D ヒカゲワラビ メシダ科

Diplazium chinense (Baker) C.Chr.

2009	C
2017	D
2023	D

【種の特性】夏緑性。県内では冬でも枯れないこともある。根茎は短く横走。葉は、普通は60～80cm。葉柄基部に披針形で、汚褐色の全縁の鱗片をつける。3回羽状複葉、濃緑色で薄い草質。小羽片の基部はやや狭くなる。孢子嚢群は短い線形、包膜は三日月形で薄い膜。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・奄美諸島。中国、インドシナ。

【県内の状況】県南部から房総丘陵の陰湿な林床に知られていた。近年山武市や多古町、成田市、佐倉市などのスギ林の林床にも確認されてきた。生育地は増えてきている。県中北部では、群生しない。根茎による繁殖が見られる。

【保護対策】生育している林全体の陰湿な環境の維持することが望ましい。

【文献】行方 1958 千植誌 1958：199-208 / 新千植誌 1975：489 / 倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 3：82 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：256 / 千植誌 2003：54, 71

（村田威夫）



D ナガバノイタチシダ オシダ科

Dryopteris sparsa (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze var. *sparsa*

2009	C
2017	C
2023	D

【種の特性】常緑性。葉は大きいものは90cmほどになる。葉柄は茶褐色で、下部に淡い茶色の鱗片がつく。山地の林床に生育するが、崖地を好む傾向がある。県内でもこのようなところに生育する。[H]

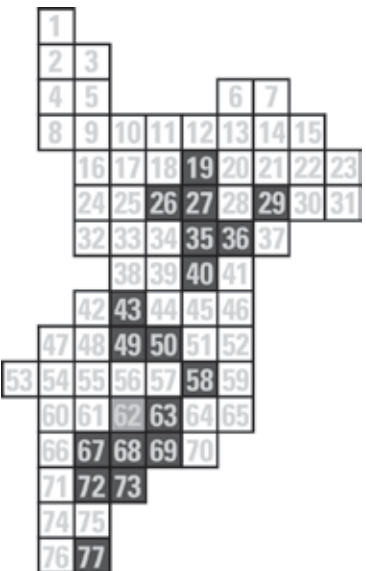
【分布】本州（千葉・福井県以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、フィリピン、東南アジア、タイ、ヒマラヤ。

【県内の状況】県内ではスギの林床にも、また照葉樹林の林床にも出現する。1970年代、県内では主として県南部にのみ知られていたが、近年県北部の酒々井町、山武市などにも知られるようになった。なお県南部でもこれまでの産地に加えて木更津市、南房総市でも産地が見つかったが、自生地での株数は少ない。

【保護対策】スギ林の環境維持や現状の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1：494-502 / 同 1997 日本のシダ植物図鑑 8：39 / 千植誌 2003：39, 65

（倉俣武男）



D ツクシイワヘゴ オシダ科

Dryopteris commixta Tagawa

2009	C
2017	D
2023	D

【種の特性】常緑性。イワヘゴに似るが羽片は15～20対と少ない（イワヘゴは20～30対）。またイワヘゴのように下部羽片が縮小することはない。包膜の発達が悪く見えにくい事も本種の特徴である。丘陵の林床に生育する。[H]

【分布】本州（千葉県以西の太平洋岸。日本海側は、山形県、石川県、中国地方）、九州。

【県内の状況】清澄山系で採集されているが、近年、下総台地において新産地が見つかった。県内ではスギ林下に生え、佐倉市の産地は市街地のスギ林下にあり、株数も多い。また山武市、多古町、香取市にも大きな群落が見られる。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持する。産地では生育環境を保全することが望まれる。

【文献】1979 日本のシダ植物図鑑 1：428-433 / 千植誌 2003：38, 48

（倉俣武男）



D ハチジョウベニシダ オシダ科

Dryopteris caudipinnai Nakai

2009	
2017	
2023	D

【種の特性】常緑性。側羽片は8対前後、長楕円形で基部はくさび型。包膜の中心部は暗黒色。ベニシダと酷似しているため確実な同定には孢子数を確認する必要がある。

【分布】本州（関東地方以西）・四国（高知県）・九州・朝鮮（済州島・可居島）

【県内の状況】県内各地で点々と確認されているが、ベニシダとの区別が難しいため、認識されていなかった可能性も考えられ、今後新たな産地が期待される。その一方で樹林の伐採、土地開発などにより生育地の減少が懸念される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい

【文献】海老原淳（著）2017 日本産シダ植物標準図鑑、千植誌 2003：40、岩槻（編）1992、日本の野生植物シダ：199

（千葉道徳）



D オオキヨズミシダ オシダ科

Polystichum mayebarae Tagawa

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】常緑性。ヒメカナワラビに似るが葉質は厚く、葉軸の鱗片は線状披針形。胞子のう群は葉身の上部から下方に向かってつく。[H]

【分布】本州（主に関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】県南部の丘陵地の沢沿いを中心に生育し、基本変種のヒメカナワラビとしばしば混生する。県北部にも数箇所の確認記録がある。

【保護対策】森林環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1983 日本のシダ植物図鑑3：492／千植誌

2003：30／谷城・森 2007

内浦山自然環境保全地域の植物相・千葉県自然環境調査

報告書：23-40

（中池敏之／谷城勝弘 追補）



D サイゴクイノデ オシダ科

Polystichum pseudomakino Tagawa

2009	D
2017	D
2023	D

【種の特性】常緑性。葉柄基部に中央が黒褐色を帯びる広披針形の鱗片を多数つける。胞子のう群は辺縁寄りで、耳片に優先的につく。[H]

【分布】本州（主に関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】県南部の清澄、三石、高宕山系を中心に生育するが、近年はシカの食害が激しく減少が著しい。県北東部にも点在する。多産地ではイノデモドキ、カタイノデ、アスカイノデの間にキヨズミイノデ、ミツイシイノデ、ジタロウイノデなどの雑種を生じている。

【保護対策】シカの食害対策をすると同時に生育地の森林環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）

1979 日本のシダ植物図鑑

1：594／千植誌 2003：

30／谷城・村田 2004 山

武町北東部のシダ植物。千

生誌 54(2)：33-44

（中池敏之／谷城勝弘 追補）



RH クジャクフモトシダ コバノイシカグマ科

Microlepia × bipinnata (Makino) Shimura

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】フモトシダとイシカグマの雑種。フモトシダに似る葉は2回羽状全裂し、小羽片の基部は羽軸に翼となって沿着する（フモトカグマのように独立することはない）フモトシダの品種のケブカフモトシダとイシカグマの雑種をケクジャクフモトシダ *Microlepia × bipinnata* forma (Makino) Shimura *hirusuta* Nakaike と言う。ケブカフモトシダは本県にも広く分布しているので今後ケクジャクフモトシダが記録される可能性がある。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】県の中部から南部に数ヶ所の生育が確認されているが少ない。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】中池 1992 新日本植物誌シダ篇改訂増補版／新千植誌 2003：13-14, 23

【写真】2011.12.13 南房総市 谷城勝弘

(倉俣武男)



RH キヨズミメシダ メシダ科

Deparia × kiyozumiana (Sa.Kurata) Shimura

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】夏緑性。コウライイヌワラビとミヤマシケシダ（千葉県のものはハクモウイノデと考えられる）の雑種で、葉柄は10～15cm、褐色の鱗片を多くつける。葉身は30～50cm、2回羽状深裂でやや広披針形である。山地の湿った林床に生じる。[H]

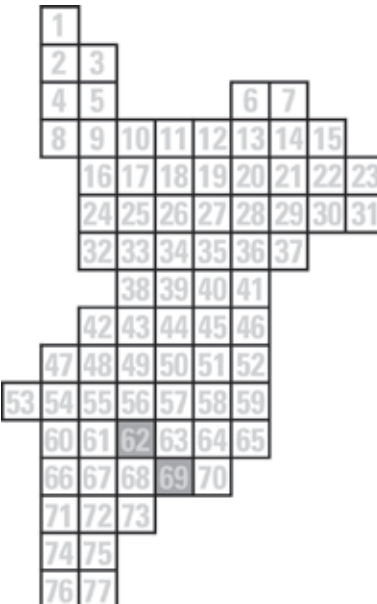
【分布】本州（青森、千葉、山梨）。

【県内の状況】清澄山でかつて採集された場所はスギ林下でハクモウイノデ、ミドリワラビ、オオクジャクシダなどのよく生育していた場所であったが、現在スギの伐採が行われ環境がかなり変化した。本種は1951年に採集、発表されて以来、その後の生育が確認されていないまぼろしのシダである。

【保護対策】森林の保全が望ましい。

【文献】中池 1992 新日本植物誌シダ編：766-767／倉田・中池（編）1994 日本のシダ植物図鑑 7：307／千植誌 2003：57

【写真】君津市産・千葉市栽培 標本：CBM BS-10239
(中村建爾／水野大樹)



RH ノコギリヘラシダ オシダ科

Deparia ×tomitaroana (Masam.) R.Sano

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。ヘラシダとナチシケシダの雑種である。両親種はともに稀な種ではないが混生する所は極めて少なく、自然雑種は出来にくいようである。[H]

【分布】本州（千葉県以西）、四国・九州、琉球。台湾、中国。

【県内の状況】県南部に稀産する。木村によって発表された生育地は林縁の林道に沿った斜面で、両親のナチシケシダとヘラシダが混生している。2003年11月にいすみ市で発見採集された所は道路脇の平坦地で両親種が混生し雑種が数株見られる。

【保護対策】両親種は稀産種ではなく、これといった対策の必要はないが存在する雑種の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】中池敏之(1992)新日本植物誌シダ篇改訂増補版／木村陽子他(1997)白浜自然環境保全地域の植物相 千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書平成8年度：3-36／中池(1997)千葉県産シダ植物のチェックリスト(5版)／千葉県のシダを楽しむ会会報17：104-112／*Depazium tomitaroanum* (Masam.) Nakaike／シダ会報3(41):11-15／千植誌2003 53,70 ※学名は属間雑種と考える中池敏之が2004年に発表したものを採用した。

【写真】2003.11 いすみ市 倉俣武男
(倉俣武男)



RH ナガサキシダモドキ オシダ科

Dryopteris ×toyamae Tagawa

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。ナガサキシダとクマワラビの雑種と思われる、照葉樹林の林床において溪畔の斜面などのナガサキシダが見られる所に生える。[H]

【分布】本州（神奈川県）・四国（愛媛県）・九州。千葉県以西に分布するが稀である。

【県内の状況】県南部にわずかに見られ、生育地でも群生することではなく、1株だけ見られることが多い。個体数は少ない。両親種は共に清澄山系に見られ環境が破壊されない限り減少することはないと思われる。現在も清澄山系で見られる。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】行方 1961 シダの採集と培養：303／倉田・中池（編）1994 日本のシダ植物図鑑7：130-133／千植誌2003：40

【写真】2023.2.15 南房総市 千葉道徳

(倉俣武男)



RH ハコネオオクジャク オシダ科

Dryopteris × *hakonecola* Sa.Kurata

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。オオクジャクシダとオクマワラビの雑種。前者に比べて下部羽片はあまり短くならず、羽片数もやや少なく 15 対くらい。後者に比べて羽片の切れ込みは浅く、基部でも中裂するくらいである。山地の林床の斜面に生育する。[H]

【分布】本州（東北～近畿）・四国・九州。

【県内の状況】1989 年に君津市で確認されている。最近では、市原市で見つかっている（中池 1995）。生育地は沢沿いのスギ林の急斜面で、数株がまとまって確認された。佐倉市においても記録されている。その生育地はスギ林下のやや凹地で両親種が混在している。

【保護対策】生育地の現状維持が望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1994 日本のシダ植物図鑑 7：106-109 / 中池 1995 市原市市民の森のシダ植物。千葉県シダを楽しむ会会報 3：11-12 / 佐倉市自然環境調査団 2000 佐倉市自然環境調査報告書 II 植物部門 / 千植誌 2003：40

【写真】2003.12. 21

佐倉市 谷城勝弘
(倉俣武男)



RH アマギイワヘゴ オシダ科

Dryopteris atrata (Wall. ex Kunze) Ching × *D. uniformis* (Makino) Makino

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】イワヘゴとオクマワラビの推定雑種。羽片はイワヘゴよりも深く裂け、特に基部で中～深裂、時に全裂することもある。[H]

【分布】1995 年に多古町のスギ林において 2 個体の生育が確認された。2010 年以降、同地での生育が確認されなくなった。リュウメンシダの繁茂により消滅した可能性が高い。

【保護対策】再出現の可能性もあるので生育地を良好な環境に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 2006 千葉県植物誌資料 21:169-170. / 海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑 II：375

【写真】2000.12.20 多古町 谷城勝弘 標本

(谷城勝弘)



RH イワヘゴモドキ オシダ科

Dryopteris × mayebarae Tagawa

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。ツクシイワヘゴとオクマワラビの雑種。前者に比べて羽片がやや少なく15対ほどで、羽状に中裂する。後者に比べて羽片の切れ込みが浅く、包膜の発達が悪いことがある。胞子嚢群は羽軸寄りにつく。山地、丘陵地の林床で両親種の混生地に生育する。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州（鹿児島県）。ツクシイワヘゴの分布範囲内。

【県内の状況】県内ではスギ林下に生え、清澄山、佐倉市、山武市で記録されている。この内、清澄山の産地は現状不明で、佐倉市では市街地に近いスギ林下の両親種の混生地にわずかの株数が存在する。これは現在も確認できる。また山武市、多古町にて生育が確認されている。両親種が減少傾向にはないので、今後新たな胞子体が形成されることはあっても消滅することはないと思われる。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持する。

【文献】倉田 1958 シダ類ノート (15)、北陸の植物 7: 11-14 / 日本のシダ植物図鑑 1994 7: 116-120 / 倉俣・中池 1996 佐倉市山崎で



観察したシダ植物。

千葉県のシダを楽

しむ会会報 8: 29

／千植誌 200340

【写真】2006.3.5

多古町 谷城勝弘

(倉俣武男)



RH イヌワカナシダ オシダ科

Dryopteris × yuyamae Sa.Kurata

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】ワカナシダとオクマワラビの雑種。ワカナシダの羽片は基部に向かって短縮するが、イヌワカナシダはほとんど短縮しない。下部の羽片は深～全裂して独立した小羽片をなすこともある。胞子は大小不揃いで不定形。[H]

【分布】本州（栃木、千葉、静岡の各県）・九州（宮崎、熊本の各県）。

【県内の状況】2001年に山武市のワカナシダ群生地において1個体が確認された。2005年に同じ林内で確認されたものは九州にのみ知られるオオスミイワヘゴ *D. × pseudo-commixta* Kurata の可能性が高く、

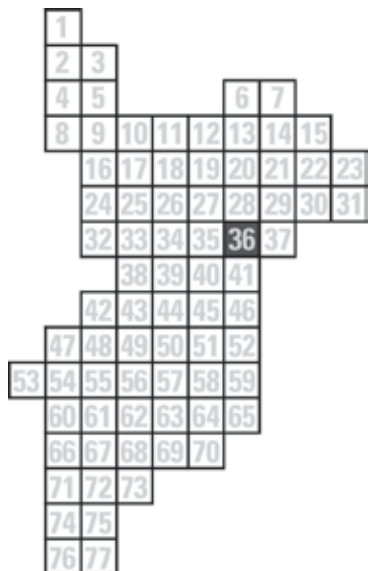
精査が継続されている。

【保護対策】生育地を良好な環境に維持することが望ましい。

【文献】Kurata 1966 Note on Japanese Ferns (40). J. Geobot. 15(1-3): 2-8 / 谷城 (2006): 千葉県植物誌にイヌワカナシダとハガネイワヘゴを追加する。千葉県植物誌資料 21: 169-170

【写真】2001.12.12 山武市 谷城勝弘 標本

(谷城勝弘)



RH シビイワヘゴ オシダ科

Dryopteris ×shibisanensis Sa.Kurata

2009	
2017	RH
2023	RH

【種の特異】イワヘゴとツクシイワヘゴの推定雑種。イワヘゴに似て羽片数が多いが、葉面は深緑色を帯びる。葉軸と葉柄の鱗片は黒褐色のものが多く。胞子は大小があり、不定形。

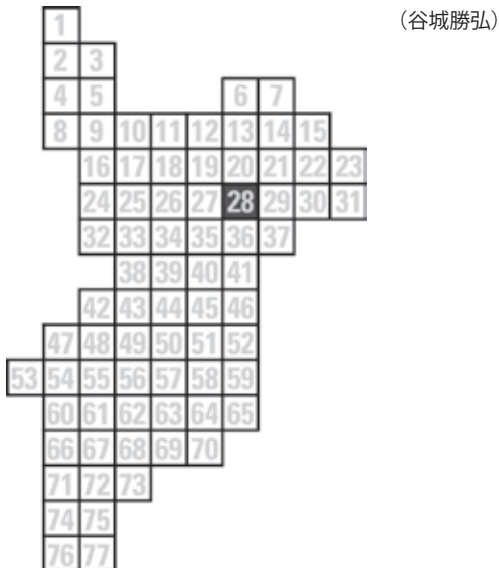
【分布】本州（千葉県・山口県）、四国（香川県）、九州。

【県内の状況】多古町のスギ林斜面において確認された。同所には多数個体が群生する箇所もあり、稔性のある胞子が形成されている可能性も考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ：376

【写真】2010.1.11 多古町 谷城勝弘



RH チバナライシダ オシダ科

Arachniodes ×chibaensis Yashiro

2009	
2017	RH
2023	RH

【種の特異】ホソバナライシダとリョウメンシダの推定雑種。常緑性。葉面はほぼ無毛。裂片縁の鋸歯は鋭頭。胞子嚢群は中間生、胞子は不定形。葉柄基部の鱗片は褐色で密生する。

【分布】本州（茨城県、栃木県、千葉県）

【県内の状況】千葉市で発見、命名されたホソバナライシダとリョウメンシダの推定雑種（Yashiro 2015）。スギ林の林床で2個体が確認された。しかし、2019年の台風により多くのスギが倒木し、環境が大きく変化してタイプ株は消息不明となった。ホソバナライシダとリョウメンシダの混生地は県内の随所に存在するが、チバナライシダの誕生は極めて稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Yashiro K. 2015 A New hybrid of Arachniodes (Dryopteridaceae) from Chiba Prefecture, Honshu, Central Japan. J. Jap. Bot. 90 (1) 34-38



【写真】2012.12.1

千葉市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



RH カワズカナワラビ オシダ科

Arachniodes × *kenzo-satakei* (Kurata) Sa.Kurata

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。リョウメンシダとコバノカナワラビの雑種で、山地の林床で両親種の混生地に見られる。両親種と推定されるリョウメンシダもコバノカナワラビも広く分布する種であるが、胞子の熟する時期に差があるせいか、雑種はできにくいようである。[H]

【分布】本州（千葉県・静岡県・三重県・和歌山県・島根県など）。10数ヶ所に過ぎない。

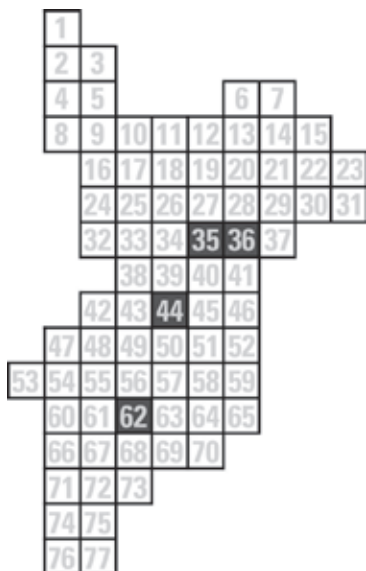
【県内の状況】千葉県の場合はスギ林下に生える。伊豆の基準産地もスギ林下の斜面であった。1993年に報告された株は2008年現在健在である。2004年、それより2km程離れた所で2株の生育が確認されている。既存の産地は少ないが、両親種が分布の広い種であるので、今後も新産地が見つかる可能性がある。但し、2018年千葉県に襲来した大型台風により市原市の産地では確認できなくなっている。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉俣 1993 千葉県新産シダ報告。シダ会報 2(93)：17-18 / 千植誌 2003：50, 68

【写真】2008 市原市 倉俣武男

(倉俣武男)



RH ジタロウイノデ オシダ科

Polystichum × *jitaroi* Sa.Kurata

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。サイゴクイノデとアスカイノデの雑種。サイゴクイノデの大型品のように見えるが、胞子嚢群は中肋寄りで葉面はやや光沢がある。両親種の混生するスギ林下にごく稀に生育する。[H]

【分布】本州（千葉県・神奈川県・愛知県）・九州。

【県内の状況】清澄山で1963年9月に採集された標本に基づいて記載された。和名は清澄演習林に勤務していた鈴木治太郎に因む。牛蒡沢にも記録されているが、近年はいずれの産地とも確認されない。2004年12月に千石沢に近い四方木のスギ林で数十個体の生育が、2005年には香取市のスギ林で1株の生育が確認されている。香取市はサイゴクイノデとアスカイノデが混生し、ジタロウイノデの出現が予測されていた。初調査から15年後である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1994 日本のシダ植物図鑑 7：344 / 千植誌 2003：31 / 千植写真 2005：332

【写真】2001.12.28 鴨川市
谷城勝弘 標本
(中池敏之／谷城勝弘 追補)



RH サンブイノデ オシダ科

Polystichum fibrillosopaleaceum(Kodama) Tagawa × *P.ovatopaleaceum* (Kodama) Sa.Kurata var. *coraiense* (H.Christ ex H.Lév.) (*Polystichum* × *midoriense* var. *sanbuense* Yashiro nom. nud.)

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】イワシロイノデとアスカイノデの推定雑種。常緑性。葉面は薄緑色で光沢は少ない。胞子嚢群は中肋寄り。葉柄鱗片は卵状の幅広いものと披針形で著しく捻れるものが混在。

【分布】本州（宮城県、千葉県）。

【県内の状況】1991年に山武市のスギ林で2個体が発見された（1991.3.21 CBM BS-189505）。付近の林床にはイワシロイノデとアスカイノデの多数個体が確認された。

【保護対策】生育地には再出現する可能性があるため、周辺域を含めて環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 2003
イノデ属 千葉県植物誌：
33 / 海老原 2017 日本
産シダ植物標準図鑑Ⅱ：
416

【写真】2000.11.26
山武市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



RH シモフサイノデ オシダ科

Polystichum ovatopaleaceum (Kodama) Sa.Kurata var. *coraiense* (H.Christ ex H.Lév.) Sa.Kurata × *P. polyblepharon* (Roem. ex Kunze) C.Presl (*Polystichum* × *inadae* var. *miekoi* Yashiro nom. nud.)

2009	
2017	RH
2023	RH

【種の特性】イワシロイノデとイノデの推定雑種。常緑性。葉面は薄緑色で光沢は少ない。胞子嚢群は中間生。葉柄と葉軸の鱗片は歯状突起縁。両親種の混生地に極めて稀に生じる。

【分布】本州（千葉県、福島県）。

【県内の状況】本雑種は、はじめ多古町で発見され（2000.4.23 CBM BS-190801）、その後山武市と成田市でも確認された。いずれの個体もその後消滅し、現在県内における確実な生育地はない。

【保護対策】旧生育地には再出現する可能性があるため、周辺域を含めて環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 2003 イノデ属 千葉県植物誌：33 / 海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ：417

【写真】2008.6.1 成田市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



RH アマギイノデ オシダ科

Polystichum ×mashikoi Sa.Kurata

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。イノデとイノデモドキの雑種。基部の鱗片の中央はしばしば黒褐色を呈する。森林性。[H]

【分布】本州（関東以西）・九州。

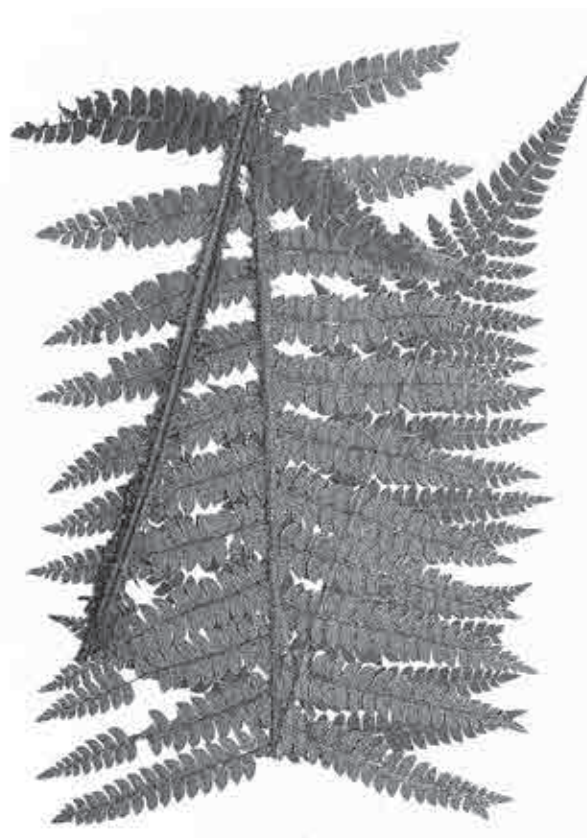
【県内の状況】古くは1950年代の清澄山系での記録がある。近年は高宕山系の沢沿いに多産地が確認されている。県北にもイノデとイノデモドキが同所的に生育する所があるが、アマギイノデは未発見である。

【保護対策】アマギイノデの生育地には普遍的に多種類のシダの生育がある。生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田 1958 シダ類ノート (18) アマギイノデ。北陸の植物 7(4): 114-115 / 伊藤 1970 千葉県産イノデ類小記 千生誌 20(1): 14-24 / 倉田・中池 (編) 1994 日本のシダ植物図鑑 7: 346 / 千植誌 2003: 32

【写真】1992.1.2 君津市
谷城勝弘 標本

(谷城勝弘)



RH キヨズミイノデ オシダ科

Polystichum ×kiyozumianum Sa.Kurata

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。イノデモドキとサイゴクイノデの雑種。葉面はサイゴクイノデよりも濃い緑色で光沢があり、胞子のう群はイノデモドキよりもさらに辺縁よりにつく。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。

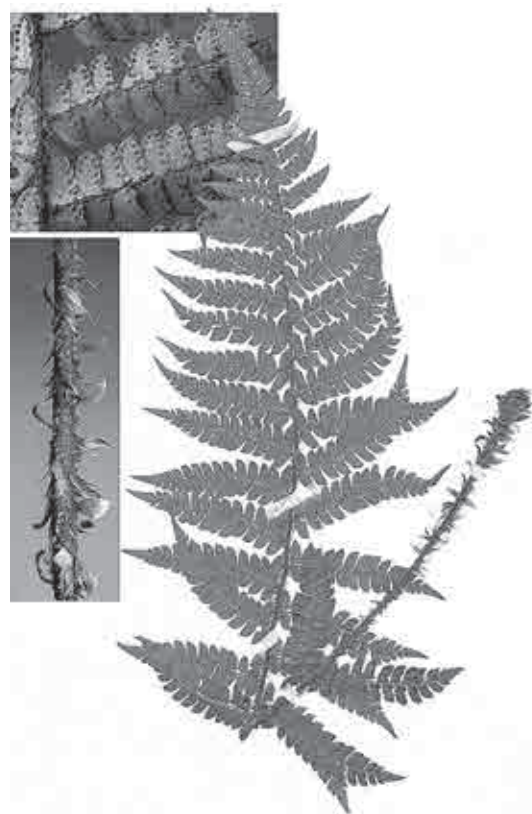
【県内の状況】県南部の清澄、高宕、三石山系の湿潤な谷沿いに両親種と混生して生える。

【保護対策】森林環境を良好に維持することが望ましい。草食獣の食害対策を早急に策定することが望ましい。

【文献】倉田・中池 (編) 1994 日本のシダ植物図鑑 7: 176 / 中池 1995 千葉県をタイプロカリティーとするシダ植物の解説 5. キヨズミイノデ 千葉県のシダを楽しむ会会報 5: 17 / 千植誌 2003: 31

【写真】君津市 谷城勝弘 標本

(村田威夫/谷城勝弘 追補)



RH アカメイノデ オシダ科

Polystichum ×kurokawae Tagawa

2009	RH
2017	RH
2023	RH

【種の特性】常緑性。カタイノデとツヤナシイノデの雑種。葉柄の鱗片は卵形で幅広いものが多く、中央に黒褐色のあるものが混じる。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】君津市の標本（1967.9.20 CBM BS-137077）があり、1990年には同地で再確認されている。君津市はキヨズミイノデやミツイシイノデなどのイノデ類の多産地であったが、近年はリョウメンシダが群生し、種の多様性が失われた。

【保護対策】旧生育地では、再び出現する可能性があるので、その環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1994 日本のシダ植物図鑑 7：185-188 / 千植誌 2003：33 / 千植写真 2005：329

【写真】1990.12.23 君津市

谷城勝弘 標本

（中池敏之／谷城勝弘追補）



